Cisco UCS Central のアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Central のリリース 1.4 へのアップグレード, 1 ページ

Cisco UCS Central のリリース 1.4 へのアップグレード

スタンドアロン モードまたはクラスタ モードのいずれかで Cisco UCS Central をアップグレードできます。すでにスタンドアロン モードのインストールを使用している場合でも、リリース 1.4 にアップグレードする際に、クラスタモードで環境を設定できます。クラスタセットアップをアップグレードする場合は、を参照してください。 クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール

ご使用のシステムが Cisco UCS Central リリース 1.4 のシステム要件を満たしていることを確認します。システム要件を参照してください。

重要

- Cisco UCS Central リリース 1.4 では、最低 12 GB の RAM および 40 GB のストレージが必要です。VM の RAM がこの要件を満たし、disk1 のサイズが 40 GB にアップグレードされていることを確認します。そうしない場合、アップグレードは失敗します。
- アップグレード後、Cisco UCS Central の HTML5 UI にログインする前に、ブラウザ キャッシュをクリアしてください。

注意

Cisco UCS Central リリース 1.4 は、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2)、2.1(3)、2.2(x)、2.5(x)MS、3.0(x)、および 3.1(1) をサポートします。Cisco UCS Central をアップグレードする前に、まず Cisco UCS Manager をサポートされているリリース バージョンのいずれかにアップグレードする必要があります。最初に Cisco UCS Manager をアップグレードしないと、Cisco UCS Central はバージョンの不一致についてエラーを生成し、登録された Cisco UCS ドメインはすべて、Cisco UCS Central からのアップデートの受信を停止します。

サポートされるリリース 1.4 へのアップグレード パス

Cisco UCS Central のリリース 1.4(1a) へのアップグレードは、次の 2 つのリリースのいずれかからのみ可能です。

- 1.2 から 1.4(1a) へ
- 1.3 から 1.4(1a) へ

重要

- Cisco UCS Central を 1.4 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。
  - Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
  - Cisco UCS Central 1.0 または 1.1 を、サポートされる Cisco UCS Central 1.2 パッチ リリースのいずれかにアップグレードします。

    リリース 1.0 または 1.1 から 1.2 へのアップグレードでは、ISO アップグレードのみがサポートされています。
  - アップグレード プロセスを開始する前に、完全状態のバックアップが取られていることを確認します。
- 障害の発生時に環境を再作成できるように、バックアップと復元のオプションを使用することができます。アップグレードをするために、バックアップと復元を使用することは推奨されていません。以下は、バックアップと復元の推奨されるベスト プラクティスです。
  - Cisco UCS Central VM が失われたというディザスタ リカバリ シナリオでは、完全状態のバックアップを使用します。
  - 既存の Cisco UCS Central VM のバックアップ ファイルから設定をインポートするため、設定のインポートを使用します。
  - 完全状態のバックアップでは、Cisco UCS Central でダウンロードされたファームウェア イメージはバックアップされません。新しい Cisco UCS Central VM を展開するとき、また完全状態のバックアップから復元するときは、Cisco UCS Central でもう一度ファームウェア イメージをダウンロードしてください。完全状態の復元を行った後、一時停止モードから Cisco UCS ドメインを認識する前に、ファームウェアイメージをダウンロードする必要があります。
- 次のオプションは、1.4 ではサポートされていません。
  - samdb 設定インポートの消去。
  - Cisco UCS Central リリース 1.0 および 1.1 からのアップグレード。
  - Cisco UCS Central リリース 1.4 を復元するための、Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 からの完全状態のバックアップ。
  - Cisco UCS Central リリース 1.4 から設定をインポートするための、Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 からの設定のエクスポート。
  - Cisco UCS Central リリース 1.4 から Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 へのダウングレード。

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード

現在動作しているの RHEL カーネルのバージョンおよびすべての Cisco UCS Central コンポーネントのアップグレード手順は、次の通りです。この手順ではすべての Cisco UCS Central データが保持されます。

はじめる前に

Cisco UCS Central リリース 1.4 の ISO イメージを取得しておく必要があります。Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

手順

ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。

ステップ 2 Cisco UCS Central ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。

ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード

重要

- クラスタの両方のノードで ISO のアップグレードを完了する必要があります。任意の順序で両方のノードのアップグレードを実行できます。クラスタ設定は、両方のノードが同じリリース バージョンの Cisco UCS Central を実行している場合にのみ使用できます。
- クラスタのノード A およびノード B の両方で次の手順 1 ～ 5 を確実に実行してください。

はじめる前に

このリリースの Cisco UCS Central ISO イメージを入手しておく必要があります。Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。必ず共有ストレージの接続性を確保してください。

手順

ステップ 1 ノード A または B の UCS Central VM をシャットダウンし、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。

ステップ 2 仮想 CD/DVD ドライブで Cisco UCS Central ISO イメージの電源を入れてマウントします。

ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

ステップ 6 もう一方のノードで、手順 1 ～ 6 を繰り返します。

ステップ 7 両方のノードをアップグレードしたら、HA 選択が完了するまで待機し、いずれかのノードでクラスタ状態を確認します。

```
UCSC-A# show cluster state
Cluster Id: 0xYYYYYY
A: UP, PRIMARY
B: UP, SUBORDINATE
HA READY/HA NOT READY
```

ノードのどちらかがプライマリとして選択され、残りがセカンダリとなります。

Cisco UCS ドメインの登録状況と可用性によっては、HA ステータスがアップグレード前の状態と同じままになります。

（注） クラスタ セットアップでは、RDM リンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードで**アンマウント**が失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ（現在の下位）ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで **pmon** サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

スタンドアロン モードからクラスタ モードへ Cisco UCS Central を変更

はじめる前に

この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

ISO イメージを使用して、Cisco UCS Central 1.0 から 1.1 にアップグレードします。参照先 スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード, （4 ページ）

手順

ステップ 1 VM を停止します。

ステップ 2 VM に共有ストレージを追加します。Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップまたはVMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップを参照してください。

ステップ 3 VM を起動し、VM が開始するまで待ちます。

ステップ 4 ローカル管理に接続するためのローカル管理コマンドを実行します。

a) central-lun **connect local-mgmt#** と入力し、Enter キーを押します。

b) **UCS(local-mgmt)# enable cluster[Peer Node IP][Cluster Virtual IP]** コマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
This command will enable cluster mode on this step.  You cannot change it back to
stand-alone.
All system services and database will also be restarted.
Are you sure you want to continue? (yes/no)
```

ステップ 5 「enable cluster mode」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。

ステップ 6 共有ストレージデバイスの入力を求められた場合、共有ストレージデバイス番号を入力し、Enter キーを押します。
この VM は、デフォルトで Forced Primary にされるクラスタのノード A になります。

システムは、スタンドアロン モードからクラスタ モードに変換して、ローカル ディスクから共有ディスクへすべてのデータを転送します。

ステップ 7 クラスタの状態をチェックします。ノードがプライマリに選択されたように表示されます。
ノード B をクラスタに追加できます。参照先 ノード B への Cisco UCS Central のインストール

注意 Cisco UCS Central のセカンダリ ノードをインストールする前に VM が再起動した場合、プライマリ ノードのデータベースおよびサービスは使用できません。**cluster force primary** コマンドを実行して、プライマリ ノードの VM のデータベースとサービスをリカバリします。